

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都多摩市鶴牧 1-26-3
園名	キッズサポート多摩第二めぐみクラブ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

五感を満たす環境づくり ③

<テーマの設定理由>

園がある多摩市は豊かな自然が広がっており、戸外では身近な自然に触れることが出来る。また保育室が広く、様々なコーナーを設置することが出来る。以上の園の特色を生かしながら、子ども達は室内外共に一人ひとりが思い思いに探索活動を行っている。その中で、日々五感を働かせながら環境や玩具に気づくなど関心をもつ姿が見られることから、“五感を満たす環境作り”をテーマとした。

子どもの姿を土台に“色彩”に着目した手作り玩具を室内環境に取り入れてみることからプログラムに取り掛かる。

2. 活動スケジュール

- | | | |
|--------------------------|-----------|-------|
| ① コーナー設定 | 期間／4月～6月 | 人数／4人 |
| ② ①の設定＋バリエーション | 期間／7月～9月 | 人数／8人 |
| ③ 子どもの姿からの発展あそび
自然あそび | 期間／10月～3月 | 人数／9人 |

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ カラーグラス／丸型だけでなく、三角形や長方形など形を増やす
- ・ センサリーマット／トンネル内床面に設置
- ・ 鏡シート／手元を映す場所やプライベート空間に設置
- ・ ソルトシェイカー／ままごとコーナーに設置
- ・ 天蓋／本物の葉を上のにせる
- ・ 壁面(戸外活動で見た自然物の写真)／絵本コーナーに設置

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 一人一人の発達(運動・あそび面)につながるような環境を作る
お座り・四つ這いの児…床、壁、棚の側面に貼る
つかまり立ちの児…棚の上、壁に配置
歩行の児…目線に入る範囲の環境に配置

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- カラーグラス…アクリル積み木を購入し、室内ではライトテーブルの上におせて光を通した色の変化を味わった。戸外へも持ち出し、太陽光に透かしたり、映し出される色の影を観察する
- センサリーマット…段ボールで作ったトンネルの床面に敷き詰めた。合わせて天井にはライトをつけ光のトンネルにした。
- 天蓋…散歩活動で集めた落ち葉を入れて視覚と共に嗅覚(葉の香り)を味わえるようにした。
- ソルトシェイカー…ままごとのアイテムとしてジュースに見立てコップに注いだり保育者に手渡して「かんぱい」などのやりとり遊びを楽しんだ。

5. 振り返り





<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子ども一人ひとりのその時々の反応や遊び方に合わせて、保育者の関わり方や環境設定に変化をつけることで主体的な遊びが生まれた。
- ・物的環境を介して、子ども同士の関わり合いが見られる様になってきた。
例：鏡を介しての「いないいないばあ」をした後に、実際にお互いの視線を合わせて笑い合うなどの姿が見られた。
- ・実体験からの気づきや興味を環境に加えることで興味が増した。
- ・子どもの五感は単体ではなく複数が重なり合って満たされていく。

(まとめ)

＊0 歳児クラスは月齢の差によって成長発達に幅がある為、同時期にそれぞれの発達過程に合わせた環境設定が必要である。

＊五感を満たす環境は戸外(自然活動)の中に全て揃っている。合わせて子どもの実体験から広がる興味や関心は連続性があるので、室内活動と戸外活動が互いにつながりのある環境作りが、五感を満たす環境につながる事が分かった。